

# 赤潮発生状況について

高木 俊祐・酒井 基介

赤潮情報伝達事業の一環として、県下における赤潮発生状況を取りまとめたので報告する。

なお、赤潮発生時などの情報収集、現場における赤潮の推移状況及び被害発生調査等は前年と同様の方法で実施した。

## 1, 発生件数

表1に平成10年(暦年)の赤潮発生状況を、図1に赤潮発生と被害件数の推移をそれぞれ示した。本年は6件の発生が認められ、前年より15件少なかった。月別の発生状況を図2に示した。月別には3~12月の間に発生が見られ、8~12月に比較的多くの発生が見られた。平年との比較では夏季に発生が少なかったのが特徴的であった。海域別には播磨灘(内の海)海域で2件、紀伊水道海域で4件、太平洋海域で0件で、紀伊水道海域が最も多くなった。

## 2, 構成種

表2に平成10年の構成種別の赤潮発生件数を示した。繊毛虫類が多く(3件)、珪藻類は1件に止まった。赤潮構成種としては、*Mesodinium rubrum* が最も多かったが、発生件数としては平年並み(2.5件)であった。この他 *Heterocapsa circularisquama* による赤潮が本県では初めて発生した。また *Gymnodinium mikimotoi* は平成7~9年まで3年続きでの発生となったが本年は発生しなかった。*Chattonella* については本県では増殖しなかったが播磨灘北部沿岸域や燧灘周辺海域では赤潮形成には至らなかったもののかなりの細胞数まで増殖した。

表1 平成10年の赤潮発生状況

整理番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種名	漁業被害	最高細胞数 (cells/ml)
1	3/30-3/31	2	播磨灘沿岸	<i>Noctiluca scintillans</i>	無	不明
2	8/5-8/12	8	橘湾	<i>Chaetoceros sp.</i>	無	15,000
3	9/21-9/25	5	内の海	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	-	3,300
4	10/8-10/27	20	榑泊湾	<i>Mesodinium rubrum</i>	無	不明
5	11/16-12/6	21	阿南市中林沿岸	<i>Mesodinium rubrum</i>	無	不明
6	11/20-12/8	8	榑泊湾	<i>Mesodinium rubrum</i>	無	不明

表2 構成種別赤潮発生件数

赤潮構成種名	件数
<i>Mesodinium rubrum</i>	3
<i>Heterocapsa circularisquama</i>	1
<i>Noctiluca scintillans</i>	1
<i>Chaetoceros sp.</i>	1
計	6

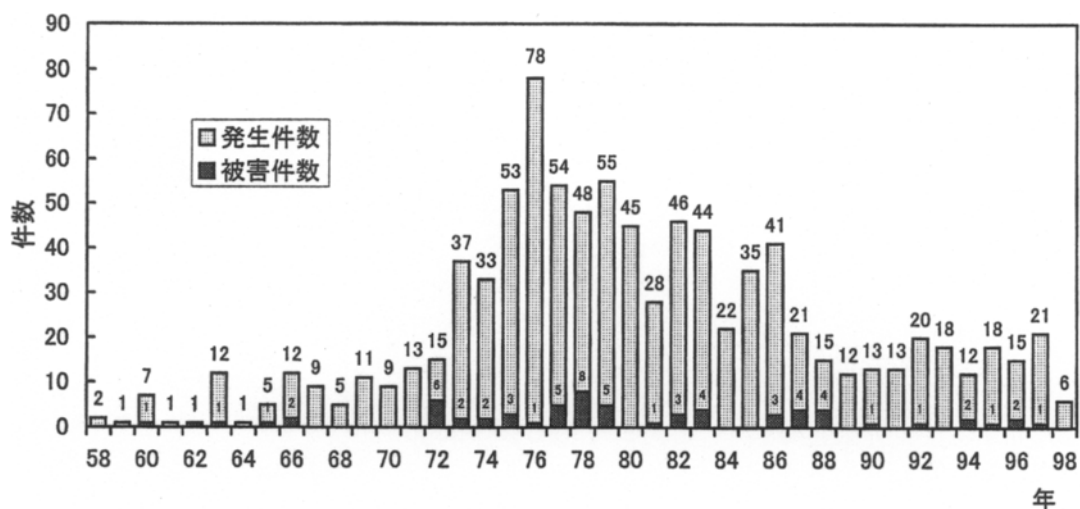


図1 赤潮の発生件数と被害件数の推移

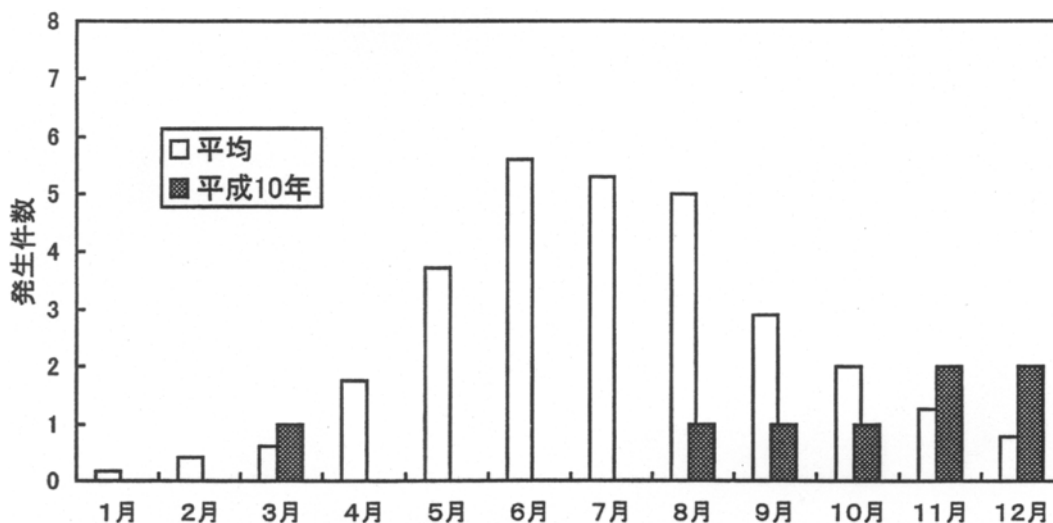


図2 月別赤潮発生件数(35年間平均と平成10年)

### 3, 赤潮分布域

平成10年の赤潮分布域を図3に示した。本年は、赤潮発生件数が少なかったが、分布範囲についても小規模なものばかりであった。

### 4, 漁業被害状況

*Gymnodinium* 伊万里型(仮称)は、本県では平成8年に初出現、赤潮を形成して以来の出現となったが赤潮形成には至らなかった。本種の出現範囲は平成8年同様橘・椿泊湾から播磨灘にかけての広範囲の出現となったが、小松島沖では最高細胞数を示し(6/11, 620cells/ml:チューブ採水試水)、この前後に中島港周辺では僅かながら魚類の斃死が報告されたが本種によるものかどうかは特定できなかった。

また、9月下旬には *Heterocapsa circularisquama* による赤潮が本県では初めて内の海で発生したが、本種は、水深2~3m層で増殖する傾向を示し、湾奥部に位置するカキ養殖筏の一部を確認したところ、この水深帯で斃死個体が多くなる傾向がみられた。しかし、被害量、被害額等は不明であった。

図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

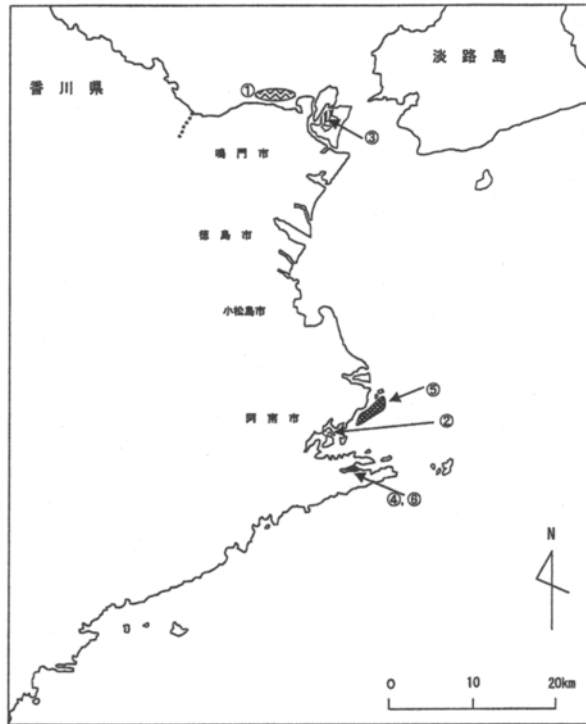


図3 赤潮形成域の分布